

子どもたちの歓声響く 2つの小学校で春季大運動会

村内2つの小学校の春季大運動会は5月に開催され、子どもたちの元気な声が響きわたりました。

鮫川小は5月18日、青生野小は同26日に開催。両日とも天候に恵まれ、短距離走や綱引きなどおなじみの種目のほか、趣向を凝らしたさまざまな種目で競い合いました。

子どもたちは、家族らの大きな声援を受けながら、元気いっぱい校庭を駆け回っていました。



上：鮫川小の紅白玉入れ
左：青生野小の綱引き

高原を駆け抜ける 第22回さわやか高原ロードレース大会



勢いよくスタートする参加者

村体育協会主催の第22回さわやか高原ロードレース大会は6月16日、鹿角平観光牧場で行われました。大会には、村内外から200人を超えるランナーが参加し、健脚を競い合いました。また、競技終了後にバーベキューを楽しみながら親睦を深めました。

成績は次のとおりです。(敬称略)

- ▶男子フリー①三瓶浩斗(鮫川中野球部)②鈴木悟(らん・Runクラブ)③鈴木蓮(鮫川中陸上部)
- ▶男子小学5・6年生①関根清也(鮫川スポ少野球部)②舟木悠悟(鮫川スポ少野球部)③吉田怜央(社川小)
- ▶男子小学3・4年生①高野敦輝(らん・Runクラブ)②圓谷吏生(里白石小)③吉田唯斗(社川小)
- ▶男子小学1・2年生①山田翔太(浅川小)②柏木秀斗(善郷小)③鈴木一真(らん・Runクラブ)
- ▶女子フリー①緑川春香(鮫川中女子バレー部)②薄井歩(鮫川中女子バレー部)③岡部花歩(鮫川中女子バレー部)
- ▶女子小学5・6年生①柏木レナ(善郷小)②北條佑奈(鮫川スポ少バレー部)③佐藤有珠(信夫第一小)
- ▶女子小学3・4年生①蛭田樹璃(らん・Runクラブ)②須藤玲奈(鮫川スポ少バレー部)③関根莉奈(らん・Runクラブ)
- ▶女子小学1・2年生①圓谷仁渚(里白石小)②藤田心優(社川小)③西牧優衣(浅川小)

村政TOPICS

平成二十五年三月、「豊かな土づくりセンター・ゆうきの郷土(さと)」敷地内に畜産振興施設「牛登録検査場」が完成しました。四月十九日には、施設完成後初となる登録検査が行われ、村内の該当畜産農家七戸の肉用牛七頭について検査を実施しました。

この施設は、村政懇談会の中で住民から要望としてあげられたもので、村の重要な産業の一つである畜産のさらなる振興を図るため建設。施設の床は、土間コンクリートで屋根が付いているため、牛の体高などを正確に測定できるようにしたほか、雨天時の作業効率を上げることができま



検査を受ける繁殖牛と畜産農家

牛登録検査場が完成 畜産振興を図る

の高齢者が参加しています。

秋の収穫を楽しみに こどもセンターでサツマイモ苗植え



お年寄りと一緒に苗を植える子どもたち

こどもセンターのサツマイモの苗植えは6月4日、同所近くの畑で行われました。

苗植えには、西野長寿会の皆さんが協力。子どもたちは植え方を教わりながら、秋の収穫を楽しみに苗を1本ずつ丁寧に植えました。

種まきから加工まで 修明高校鮫川校で大豆栽培



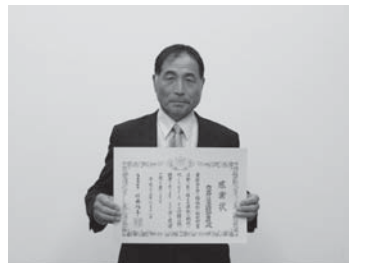
大豆の種をまく生徒たち

今年で8年目を迎えた修明高校鮫川校の大豆栽培。その種まき作業が6月12日、同校近くの畑で行われました。作業には1年生38人が参加。鈴木寛重さん(馬場)に指導を受け、20分間隔で種をまきました。秋に収穫し、郷土料理やお菓子などに加工します。

栄えある受賞

赤坂東野・石井草区納税貯蓄組合が 優良納税貯蓄組合として感謝状を受賞

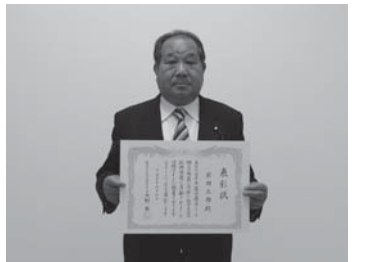
県税の納税に功労のあった団体として、赤坂東野・石井草区納税貯蓄組合が優良納税貯蓄組合として感謝状を受けました。



表彰式は、6月11日に福島県庁で行われた福島県納税貯蓄組合連合会定時総会の席上で行われました。

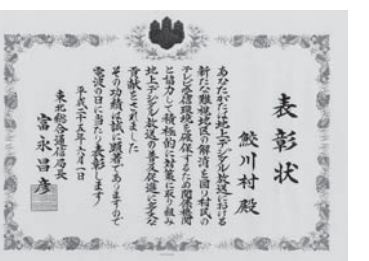
前田三郎村議会議長が「自治功労賞」を受賞

村議会の運営、村自治の振興発展に尽力した功績が認められ、前田三郎村議会議長が県町村議会議長会から「自治功労賞」を受けました。前田議長は平成19年5月1日から6年にわたり議長を務めています。



鮫川村が「東北総合通信局長表彰」を受賞

地上デジタル放送の難視聴地区の解消に取り組んだ功績が認められ、鮫川村が「東北総合通信局長表彰」を受けました。表彰式は、6月3日に宮城県仙台市で行われた「電波の日・情報通信月間」記念式典の席上で行われました。



村政TOPICS

大豆などの種子配布 143人が豆づくり



種子を受け取る豆づくり参加者

「まめで達者なつくり」事業が十年目を迎え、今年栽培する大豆・じゅうねんの種子配布を五月二十八日に各地区の集落センターなどで行いました。

近年、連作障害による大豆の小粒化が進み、良質大豆の生産が課題となっています。そのため、今年は大豆の作付けを制限し、エン麦の種子を無料で配布することで、休ませる取り組みを行います。七月には生産者研修会を行い、エン麦の蒔き込み講習を行う予定です。

今年、大豆の栽培に四十九人(七〇畝)、エン麦の栽培に五十二人(九・五畝)、じゅうねんの栽培に四十二人(四〇畝)の合わせて百四十三人(二〇・五